

みんなで考える新市民会館シンポジウム議事録

日時：平成30年1月21日（日）14：00～16：00

場所：茂原市役所 市民室

1. 開会

2. 主催者挨拶

田中 豊彦 茂原市長

3. 基調発表

(1) ～市民ワークショップで考えた市民会館案～

(ワークショップ参加者代表)

片爪 靖彦 氏

花崎 洋 氏

新村 道子 氏

磯野 智由 氏

(2) 基本構想の概要

茂原市役所企画財政部企画政策課

政策推進室長 渡部 智之

4. パネルディスカッション

(パネリスト)

五十嵐 誠 氏 東洋大学経済学研究科客員教授

倉田 直道 氏 工学院大学名誉教授

篠原 聡子 氏 日本女子大学家政学部住居学科教授

古橋 祐 氏 昭和音楽大学音楽芸術運営学科教授

田中 豊彦 茂原市長

(コーディネーター)

伊東 正示 氏 (株)シアターワークショップ代表取締役

5. 質疑応答

6. 閉会

発言者	内容
司会	<p>皆さま、大変長らくお待たせいたしました。</p> <p>ただいまより、「みんなで考える新市民会館」シンポジウムを開会いたします。皆さま、本日は大変お忙しい中、ご来場いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私、本日の司会を務めさせていただきます、茂原市政策推進室の米倉と申します。本日はせっかくの機会ですので、皆様にも有意義なシンポジウムとなるよう一生懸命努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、主催者であります茂原市長 田中 豊彦より皆様にご挨拶申し上げます。</p>
主催者挨拶 茂原市長 田中 豊彦	<p>こんにちは。せっかくのお休みのところ日曜日にも関わらず、大勢の市民の皆様にご来場いただき、また議会の方からも議員の先生方、大勢お集まりいただきありがとうございます。みんなで考える新市民会館シンポジウムということで、今日開催させて頂きました。</p> <p>この市民会館については、広報で私が私見で書いたのですが、それが結構波紋を呼びまして。九月一日号で『市長が行く』というコラムの中で書いたのですが、何が波紋を呼んだかという、その時の考え方でまだフィフティフィフティという言葉を使わせていただきました。これは、やるのかやらないのかというような捉え方をされたらと当然のごとく思っております。私としてもそういう気持ちがどこかに未だにあるんです。これはなぜかといいますと、実は茂原市の借金はまだ600億くらいございます。800億くらいから200億くらい10年で減らしてはきたのですが、まだ重いというのが一つ。</p> <p>それからもう一つ大きな問題は、茂原市単独ではなくて広域行政をやっておりまして、その広域行政の中でもやはり更新事業というのが次から次へと生じてきます。今既に、し尿処理場の建て替えをやっていて、これでも30数億お金がかかります。そのうちの約6割が茂原市の負担です。このあとにもごみ、消防、病院関係、水道事業もございます。したがってこういったことを考えていくと、やはり結構膨らむな、財政上結構厳しいなということがあり、フィフティフィフティという言葉で書かせていただきました。</p> <p>こうして公にすると、やるのは当たり前だよと思われるかもしれませんが、基本的に私も進めたいと思っています。今日こうしてお集まりいただいたパネリストの皆様方は日本の超一流です。こういう先生方にこの茂原の市民会館について真剣にこの場で話し合いをして頂けるだけでも私としては非常に光栄に思っております。50年経った市民会館、皆様からの強い要望もございますし、なんとしてもやるつもりで今のところありますが、ただご存知のようにオリンピックで人件費から資材から、上がっています。ピークアウトするのがオリンピックが終わってから若干といわれています。そこを睨んでの話しになってくると思っております、その後私が任期を迎えて、あとの残りの5年、10年のスパンで正式にどう稼働していくか、ということになってくると思います。</p>

	<p>ただ、その以前に今日お集まりいただいた皆様方には喧々諤々、ここまで来るのに相当な会議をやって頂いております。特に伊東先生にはかなりご尽力いただいて、その意見を踏まえて今日はまたシンポジウムを開かせて頂いたところであります。基本構想ということですので、市民会館を基本的にこうしていこうという案を話させて頂きたいと思います。このあと基本計画と移っていきます。最後の方に市民の皆様方から色々意見伺うと思いますけれど、その際には思った所をどんどん出して頂ければと思っております。</p> <p>市民会館は平成31年の3月に閉館する事となっておりますが、この市民会館も本当に市民の方から愛され、ずっと使われてきた市民会館でございます。それに代わる立派なものが建てられるように、私としても、トップとしてやっていくつもりでございます。よろしく申し上げます。</p>
<p>司会</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>これより基調発表・パネルディスカッションへ移りたいと思います。パネリストのご紹介をさせていただきます。東洋大学経済学研究科客員教授 五十嵐 誠様、工学院大学名誉教授 倉田 直道様、日本女子大学家政学部住居学科教授 篠原 聡子様、昭和音楽大学音楽芸術運営学科教授 古橋 祐様、茂原市長 田中 豊彦でございます。</p> <p>そしてコーディネーターの株式会社シアターワークショップ代表取締役 伊東 正示様です。</p> <p>ここからの進行は伊東 正示様にお願いしたいと存じます。それでは伊東様よりよろしくお願いいたします。</p>
<p>伊東氏</p>	<p>みなさんこんにちは。タイトルにもありますように、みんなで考えるということで。これまでも市民のワークショップをやりながら、市民のみなさんと一緒に考えてきましたけども、今日もその一環としてここにいる皆さん全員で考えましょうということで進行させていただきます。基本構想をつくるということでこれまで進めてきたわけですが、普通だと行政がコンサルタントに頼んで、案はどうだろうとつくってしまうと思います。それを専門家の先生に見て頂いて進めていくというのが普通のやり方かと思うのですが、今回全くそうではありません。行政側がこう思っているというのは何もない状態で市民の代表の方々に集まって頂いて、10代から80代まで、39名の参加者の方々と一緒に計五回ワークショップという形で進めてまいりました。</p> <p>市はこう考えているということをお伝えするのではなくて、市民のみなさんは何が欲しいのかということをもとめてきましたが、まだ固まっていません。どうするかというネタの部分だけです。それをこれから市民ワークショップに参加して下さった皆様に、こんな議論をしてきましたという形でお話しいただいて、それをもとに市の方でまとめた仮の案をお伝えして共有しながら、その後専門家の先生のご意見を伺ってみようというような段取りになっております。それではまず市民ワークショップのメンバーのみなさんにご発表頂きたいと思います。</p>

基調発表

発言者	内容
片爪氏	<p>5つのチームでもって、いずれもチーム名に茂原の方言を使いまして、本当に和気あいあいと、5回の討論を重ねてきました。私はその中でメインになります大ホールについてまとめたことをご報告したいと思います。</p> <p>まず、やってみたいことですが、大きく分けると3つに分かれます。やはり若い人達に参加して頂きたい。これからつくったホールをレガシーとして残して行きたい。そのために若い子たちに来てもらえるようなアイドルのライブをやるとか、小中高校生のいろいろな演奏会とか。それから茂原市民はたくさんのサークルがございます。その人たちが中心になってどんどん発表できる場であり、ひいては日本中世界中の一流のアーティストやいろいろな方面に渡るイベントをやって行きたい。それから演劇系というのはやはり、例えば劇団四季とかオペラとか、西洋的なものとかフラダンスとか色々なイベントがあります。そしてもう一つはこれもホールをフラットにした時に多目的な広場として、例えば災害時の施設だとか、成人式とかいろいろな方面に使って行きたいと、およそ60から70くらいのいろいろなアイデアが多方面にわたって出てきました。それをやるためのしっかりとしたホールをつくっていくことが狙いどころです。</p> <p>それからホールの規模ですが、やはり茂原の人口規模や将来性を考えると、大ホールといえども800～1000席かなと。そして多目的としたときは1000～1500人ほどかなと思います。ではこういったイベントをやるためにどんな設備や機能をつくっていったらよいのか。まずは広いステージ、フラットなステージ、いい音響や照明、大画面のスクリーン。それから数日前の新聞にありましたが、3Dを使って歌舞伎ができる技術があるようです。やはり近い将来いろいろなマルチメディアを使った、そういう機能を備えることはレガシーとして大事じゃないかと思います。</p> <p>それからもちろん、こういうステージも充実させたり、大事なのは出演する人達、それを支える裏方さん、道具を運んだり、そういうものを含めた搬入から組立、保管・保存、撤去。そういったことをしっかりと支えることも大事だと思っています。</p> <p>それからトイレの話です。出演者の方も含めて幕間にリラックスできるように、ウォシュレットを整備していただきたいと思います。また、それに伴う附帯設備について。出演者を支える人たちの控室が充実していること、和室も必要、VIPの個室も含めて、しっかりとしたものをつくる。リハーサル室、練習室、楽器の倉庫、こういったものを客と分離した動線として、しっかりと設定していきたいと思います。</p> <p>大ホールのイメージ図も書いてみました。簡単ですが、こういったレイアウトをイメージしています。</p> <p>総括してみますと、レガシーを残していきたい。茂原市の人口は9万人程度ですが、減少しています。外房の文化圏、文化ホールとしての活用を考えてみますと、約40万人が活用できるんじゃないか。例えば私は合唱をやっているんですが、合唱関係でも外房地区には30近くの団体があります。茂原市にはそのうちの半分以上、500、</p>

	<p>600人程度が携わっています。それを指導してくださる先生方や世界的なチャンネルも含め、おおいに活用できるんじゃないかと思います。是非こういうことを実現できるようなホールをつかってほしい、以上をグループの結論として申し上げたいと思います。</p>
花崎氏	<p>中小ホールと大ホールはどう違うか、ということを私たちは考えました。大ホールは中央からくる立派な演奏者を受け入れて聞く立場です。中小ホールは私たちが主人公となって、運営し、演奏したりする立場です。小はそれが極端になったもので、中は大と小の間になるのではないかと思いました。中ホールは500～600席、小ホールは100～300席を考えます。</p> <p>中ホールの設備ですけれども、ステージサイズは弦楽合奏が40名程度、優れた音響・照明設備、設置が簡単な山台。山台というのはステージの上に四角い箱を乗せて、皆さんが高くなるようにするものです。あるいは、茂原にもダンススクールの子どもさんがたくさんおられますが、そういった練習場も加えたいと思います。</p> <p>小ホールにつきましては、まさしくダンス用の床、フロアになるようなものとか、バレエの練習の場、カラオケセットといったものを設けたいと思いました。</p> <p>中小ホールの共通の事項としては、災害が起きたときに避難場所になるようにと考えました。避難場所になるということは、トイレや調理場ということも考えて加えるべきだと考えました。附帯施設としては練習室、楽屋、レストラン、レストランの名称案では「ポーソナーレ」という案が出ました。ポーソナーレというのは房総にどうぞいらっしゃってくださいなという意味だそうです。これは私たちの中でだいぶけました。</p> <p>報告は以上ですが、私の考えた想いが4つあります。それを述べさせていただきます。一つは、新しい会館のキャッチフレーズとして、まちのリビング、これは皆さんの家にリビングがあるように、まち全体のリビングを会館のロビーに求めたいと思っています。音楽会などがなくても、そこへ行ってみたいと思えるようなロビーにしたいと考えました。</p> <p>次に、運営についてです。では、まちのリビングを具体化するにはどうしたら良いか。いまの茂原図書館は管理者制度という制度と成っています。市民会館もそのシステムか、あるいは新しい運営会社を起こして運営する。そこに市民もボランティアで参加することが大切ではないか。そうすればまちのリビング化が可能ではないかと考えました。</p> <p>3番目に規模について考えました。これから茂原市が云十年後の人口と財政の状況、茂原だけではなく周辺自治体も絡んできます。それにびたりと合うのは800席が限度ではないかと考えました。それにプラスして小ホール。それで十分に云十年後でも対応できるのではと考えました。</p> <p>4番目にデザインですが、カジュアルな外観・内装として、現庁舎の前庭が馬蹄形となっていますが、もしこの近くにつくるのであれば、この馬蹄形の前庭と新しい会</p>

	館の前庭を、道路を挟んでリンクさせて、その間を緑地にしたらどうかと思っています。以上です、ありがとうございました。
伊東氏	ありがとうございました。大ホールと中ホールと小ホール、3つのホールをつくろうという話ではありません。市民の中には大きなホールが良いという人や、もっと小さくて良いという人、小ホールをきちんとつくりたい、という人もいました。そこを並列して発表していますこと、誤解なきようお願いします。
新村氏	<p>公民館機能については、8つの部屋で成り立っていったら良いのではと考えました。多目的室、会議室、和室・休憩室、茶室、視聴覚室、調理室、交流スペース、事務室ですね。</p> <p>次にそれぞれの部屋の設備や要望についてお話したいと思います。多目的室、これは主にサークルの練習に使われる部屋を想定しています。バンド演奏・器楽演奏・コーラス、時にはダンスの練習場としても使われるでしょう。ですので、防音・遮音をしっかりと、天井を高く、壁には鏡を貼っていただくとダンスのレッスンには有効だという希望もあります。もちろんピアノも付属でお願いしたいと思います。</p> <p>会議室、会議のための部屋ですが、避難所として災害時に200人程度が入れる部屋が欲しいと思っています。そこを仕切りながら使っていきたいと思っています。付属としてはホワイトボード、プロジェクターなどが必要かと思われます。</p> <p>和室・休憩室、畳の部屋で主に和物のカルチャーに使われると思っています。茶室は茶道の方の希望です。最大50人と書いてありますが、先ほど70~80人という希望もいただきましたが、水屋や寄付き、道具をしまう押し入れなども附帯設備で欲しいと言われています。</p> <p>視聴覚室、これは見たり聞いたりできる部屋ということでそれにふさわしい資料・機能が備わっていると良いと思います。音楽の練習にも多々使われると思っています。</p> <p>調理室、料理教室のカルチャーということで、6人がけのテーブルが6つ、それに附属して調理備品も備えて欲しいという要望です。</p> <p>次は交流スペースです。交流センター、ボランティア、福祉活動などの拠点として自由に使える部屋が欲しい。</p> <p>最後に事務室です。公民館の機能を司る、事務的な基礎的な部屋です。時として応接セットも入れてお客様の対応もできるような部屋が欲しいと要望しました。いかがでしょうか。</p> <p>公民館はホールと違いまして、日常的に、継続的に、幼児からご年配の方まで、生涯学習、交流の場を求めていると思います。その要望も多岐にわたっていると思いますので、公民館の機能は大きな役目だと思います。</p> <p>そしてこれからますますバリアフリー化が要求されてきます。洋式トイレの話もありましたが、市民が利用しやすい、優しい、私たちの幸せづくりを支えてくれるような公民館が誕生して欲しいと思います。</p>

	<p>終わりに、市民の長年の、待望のホールの実現にむかって茂原市が大きな一歩を踏み出されたことに、敬意と感謝を申し上げます。ありがとうございました。新しいホールにどんな名前がつくのでしょうか。大きな夢を叶えるには大変なご努力と年月が必要とされるかと思いますが、どうぞよろしくをお願いします。</p> <p>サークルの皆さんに茂原に新しくホールができるらしいと伝えると、メンバー皆、目を輝かせていて、5年先かなと伝えると、1年でも早くと言われました。先ほど資料を見ましたら、最後に平成35年度の完成を想定していますと書いてありました。あと5年ですね。嬉しく思っております。どうもありがとうございました。</p>
磯野氏	<p>その他機能というテーマでお話させていただきます。</p> <p>ワークショップという形で皆さん意見を言っていたのですが、付箋に自分の好きなことをなんでも書いて良く、それに対して否定的ではなく肯定して受け入れていきましょう、ということが行われたので、皆言いたい放題なんですね。その他機能については皆さんのやりたいことがいっぱい出てきてしまっていますので、そこはご了承いただければと思います。こんなにできないだろうという内容も盛りだくさんです。</p> <p>アクティブな活動ということ、館内でできること、賃貸として運用していけばいいのではないかという3つに分けています。アクティブというところで言うと、盆踊り、各種祭り、フリーマーケット、〇〇マルシェ、六斎市、六斎市というのは4と9がつく日に市をいつも開いています。ここでも文化的な市を期待できないか、マラソンジョギングステーションや、キッチンカー集合祭、コンサート、宿泊施設にできたら、プロジェクションマッピング、グランピングのような意見も出ていました。</p> <p>やってみたいことの後にどんな諸室が必要か、といったところでは、親水公園があったり、アスレチック、じゃぶじゃぶ池、緑や水を感じるホール、散歩道だったり、屋外・外部と一体となれるホールがあると良いねという意見もありました。そのため機能、設備としては、駐車場を確保したい、催事するとき駅から15分くらいあるので無料の循環バスがあっても良い、夜間暗くならないような照明、Xスポーツ、スケボーなど若者が遊ぶための施設があっても良いね、ということが出ていました。</p> <p>館内でやってみたいこととして出ていたのは、ホールだけど、そこでも本が読める、勉強ができるようなスペースがあると良い。温泉的なもの、シャワールーム、マラソンの関係なのかもしれませんが、そういったものがあったり、あとはアンテナショップ・物産店、幼児室、キッズニア、アスレチックのようなものができたり、子どもを中心とした遊び場、ふれあえるような場所があると良いのではないかという意見が出ていました。そのため機能としては、開けた場所があると良い、WiFiが必要、エレベーター、バリアフリー、ユニバーサルデザイン。いろいろなところにベンチがあって和気藹々とできるようなスペース、幼児・老人のためのスペースというのも考慮していただけたら良いなという意見が出ていました。</p> <p>賃貸部分としては、先ほども出ましたが産直ポーソナーレ、ジビエ料理関係をそこで提供して、そういったお店に賃貸してもらっても良いのでは、他にもスタバやドト</p>

	<p>ールなどに借りてもらうということも考え方としてはありだろう、ということでした。そのための諸室としては、喫茶室、調理場、おいしいパン屋、レストランがあると良い、ということです。</p> <p>敷地によってはレストランが必要ということで、敷地がどこになるかわからないという話も出ていたので、場所によってはレストランがあると良いのではないかと。専門家の健康食を扱うレストラン、茂原の特産品を扱ってつくっていった方がより市のためになるだろうということでした。</p> <p>ざっくり書いたイメージ図です。ホールとか公民館がそれっぽくないようなつくられ方をしよう、先ほどまちのリビングというようなお話もありましたが、いつでも皆がそこにいられるような施設としてあった方が、活用もできるし、皆のコミュニケーションが生まれる場になるだろうということ、そちらに茂原公園というのがありまして、そこから桜が綺麗な川沿い、そういったルートをつくって一宮のサイクリングコースとつなげて散歩道になったり、親水エリアと一緒につくって、いつでも皆がそこに集まれるような、中心となるような交流の場として、ホールがあるともっと楽しい活用になって、皆がいつまでもそこにいられるような施設になるのではないかと、という意見でした。以上です、ありがとうございます。</p>
--	---

パネルディスカッション

発言者	内容
伊東氏	<p>ありがとうございました。ということで、ワークショップの中で出たお題のダイジェスト版でした。さらに詳細はかわら版をご覧ください。大ホールだけでもこんなことがやりたい、というのは100くらい出ていました。5回にわたって皆さんで夢を語りました。ここで、専門家の先生方に市民の発表を聞いていただいたので、コメント・感想などをお願いしたいと思います。</p> <p>古橋先生から簡単にコメントしてください。</p>
古橋氏	<p>いま市民の方々からご希望といいますか、夢を語っていただいて。すごく広がってしまっていて、どれもこれもそうだなあと思うことが多いと思うんです。これから先生方のお話があると思うんですけど、ただ、聞いていらっしゃる方もわかるように今の中には色々な矛盾を含んでいます。これからそれを皆さんが絞っていくという段階かと思うんですけども。先ほど、例えば将来のレガシーというお話がありましたが、でも自分たちは早く欲しいという話もあった。芸術ってどういうことかと考えると、市民会館は誰のためにあるんだと考えてみたときに、当然皆さん自分たちが使いたいという想いもあると思います。ただもう一つ大事なことは、なぜ皆さんが芸術文化にそれほどモチベーションを持っていかれるのかということ、皆さんがいままで人生の中で芸術からいろいろなことを与えられ、それを幸せと思い、あるいは人生の一つのパワーのもとになっているから、こういう施設が欲しいと思っていると思います。</p> <p>大事なことは、自分たちはこれを使いたいという思いは当然。と、同時に次の世代にそのことを継承していく、あるいは今のお子さんたち、若い人たちが皆さんと同じ</p>

	<p>ような経験をしながら、次の世代、人生を歩むもとなるというのが実は一番大事なのではと思います。いろいろな夢があると思うんですけども、市長さんをかばうわけではないですけど、そう簡単には問屋は卸さないということかと思いますが、是非皆さんの気持ちを持ちながら、ご協力いただいて、一番良い形で最終的なものをつくっていったら、それが一番大事なんじゃないかなと思いました。総合的な感想です。</p>
<p>篠原氏</p>	<p>私、隣の東金というところの出身でして、小さいときにあのホールでピアノの発表会をしまして、あのときぴかぴかだったのが建替えということになりまして、それだけ年月が私も経って…。どのくらい建築が長生きするのかと思うと、どのくらいもたせるということを考えてつくるのか、ということも考えました。</p> <p>感想だけ申し上げますと、それぞれのプレゼンテーションが的確ですばらしくて、単に茂原市が持っているポテンシャル、このあたりの中核として、茂原市だけでなくもう少し広域的な視点があっても良いじゃないかとか、単にホールというだけでなくまちのリビングという素晴らしい言葉も出てきて、なにかやっているときだけでなく皆の居場所になって、せっかくお金をかけるのだから使い倒そうということだと思ふのですが。公民館とのお話でも、生涯学習という話とか、多目的に使えて、空間のイメージもなかなか良かったと思うのですけれども。中と外が連続するようなイメージとか。確かに多くの矛盾をはらんでいます、それをこれからどういった形で出てきたすばらしいものを、専門家、市民、行政の方が入りながら、最終的に結晶させていくのかというのが大変だと思いますが、ご発表を聞いていて本当につくづく感心いたしましたし、楽しみだなと思いました。</p>
<p>倉田氏</p>	<p>私は建築だけではなくて、まちづくりも専門にしております、これまでもいろいろな自治体の、皆さんがいま検討されているような施設の構想ですとか計画作りをお手伝いしてきております。そういった経験を踏まえて伺っていると、やはり市民の皆さんが求めているものというのは、場所は違えど、共通するなと思っています。</p> <p>先ほどもありましたが、まちのリビングにしたいというお話があったように、市民の皆さんが職場、家庭以外に立ち寄ることができる、気楽に立ち寄っているいろいろなことができる場所が欲しいということではないかなと思っています。</p> <p>特に最近、地方へ行けば行くほど車社会が発達して人と人が接する機会がすごく少なくなっている。そういう意味で、今回の施設に皆さんのそういった思いが相当込められているなということを感じたところです。私の経験から、最初に市民に話を聞くとこのくらいのもが出てくるのは普通なんです。実際に皆さんの要求一つ一つに、このくらいのスペースが必要だと当てはめていくと、トータルで実際に実現できる建物面積の2倍とか3倍になってしまうのが普通です。</p> <p>だからといってすぐに諦める必要はないと思います。これから、市民参加で議論を進めていくと、いろいろなことが起きていきます。その中で、いろいろな場所をどう有効に使うか、一つの活動に対して一つの場所ではなく、一つの場所をいろいろな使い方をしようとするだけでもいろいろなことが可能になります。</p>

	<p>それから大事なのは運営です。行政の人間だけでやると限界がありますが、運営に市民の皆さんが関わっていくと、市民が関ることで例えば利用時間がかなり広がったり、利用の自由度が増してくるということがあります。皆さんが今回出された夢というのはできるだけ持続していただいて、特にこれから計画に入っていくところでも皆さんに参加してやっていただくことで、かなりの部分が実現できるのではと思っております。</p>
<p>五十嵐氏</p>	<p>自分の専門は公民連携ということで、PFI とか PPP といった言葉を聞いたことがあるかもしれませんが、民間の活力を活用して、いかに公共サービスを実現していくのか。コストの面だけでなくサービスをどう向上させていくのか。こういうところを一つ専門にしております。もう一つの専門は公共施設の老朽化問題。茂原市の公共施設総合管理計画の策定にも携わらせていただきましたけれども、財政が厳しい中で、大量の老朽化施設が出てくる中で、どういうふうに対応していくのかという問題を考えているところです。</p> <p>それはさておき、いま4名の方に発表していただいたんですが、いろいろなアイデアが盛り込まれていて非常に感心、参考になったなと思います。是非夢を実現していく、このためにはどういうことをしていったらいいのか、夢を語るだけでなく、それをどう実現していったらいいのか、それを皆さんと是非一緒に考えていきたいと思っています。</p> <p>かつてであれば、行政にお願いしてつくってもらえば良かったという時代はあったんですが、今の市民会館がどうなっているかという50年経ってボロボロになってしまった、その間手が加えられていないという状況になっています。行政だけに任せると、そういう形になってしまう。結局は財政問題、そのときの諸事情で致し方なかったのですが、そういう中で、今後立派な夢を実現するためにはどうしたらいいのか。これは行政だけでなく、いま倉田先生が言われたように、市民の方の協力、積極的な参加がやはり必要ではないかなと。</p> <p>公民連携というのは企業と行政の協力と捉えられがちですが、民というのは企業だけでなく、住民、市民、市民団体と幅広く考える中で、それらが一体となって一つの夢を実現していくというふうに捉えていただいたほうが良いかと思います。そのためには運営をどうするのか、施設の活用をどうするのか、その資金、施設を維持していかうとすると非常に大きな資金が必要になってきます。</p> <p>ホールは専門ではないですが、照明装置、音響装置、舞台装置、空調とか。建物自体は60年、立派につくられていれば80年と持ちますが、そういった設備はせいぜい15年、20年、もって25年とそんなもんです。ですから、80年もつとしてもその間2、3回は設備を入れ替えなければならない。そのために何億といったお金がかかってくるわけですが、そういったお金をどう確保していくのか。これを行政だけにお任せすると、そのときの財政事情で十分な手当てができなかったりということが起こりがちです。</p>

	<p>そういったお金の面も含めて、どのようにこの夢を実現させて継続させていくのか。つくるだけでなく、そのあとも是非一緒に考えていただきたいと思います。</p>
田中市長	<p>このシンポジウムをやる前に、市民の皆さまに集まっていただき、いろいろな角度から討論していただき、大ホール、中小ホール、公民館等、複合施設にしていきたいという思いもありましたので、恐らくそういう観点から今日は発表していただいたと思っています。</p> <p>一つずつみていくと、やはりボリュームアップしていて、先ほど先生からお話もありましたが、これを実現するためには想定の数倍くらいものになってしまうかなと捉えておりました。今回の検討の大きな目標としては、一つのホールをいかにして多様性をもたせて使えるか、ということ視野に入れて検討をしてきたと思っています。従って、大ホールでありながら、音楽にも使えるし、パーティールームにも使える、あるいはその他の例えばプロレスなどの競技にも使えるとか、そういうようなことで検討してきていると思っています。</p> <p>ただ、どうしても私の頭から離れないのは財政上の問題です。官民が一体となってというお話が五十嵐先生よりありましたが、なるほどと。公と民という中でも別の捉え方もあるのかと。こういったことも思った次第であります。いずれにしても、日本中いろいろな市民会館や公民館をやっている先生方ばかりですので、今後のアドバイス、方向性といったものが茂原市にとって非常に明るいものになると期待しているところです。</p> <p>茂原市民会館も国などの交付金を活用する。これは行政としての命題かと思っていますので、このあたりも考えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。</p>
伊東氏	<p>ありがとうございました。市民ワークショップをやっているときに、自由にご意見を出してくださいとお願いをしていました。いま、市長が思っている通りになったというお話をされていましたが、そういうお話は一切聞いていなくて、皆さん好きに考えました。それがうまく市長の意見と合った、結果論としてそうなったということだと思っています。</p> <p>そのときをお願いしたのは、出す意見は全て通るわけではありません、ということをお願いしました。「千三つ」とよくお芝居の世界でいいますが、チラシを1,000枚配ってやっと売れるのは3枚だと。3/1000だから0.3%程度しか力を発揮しません。ワークショップもそういうものです。でも別の見方をすれば、意見を出さない限りは絶対実現しない。どこかにあるものと同じものしかできない。新しいなにかをするためには、市民から、実現の可能性は低いかもしれないが、意見を出さない限りは実現しませんから、意見・アイデアを出してくださいとお願いしてきたものです。いまの発表もすべてではなく、ダイジェストだと思いますが、さらにこれを実現するためにはかなり絞り込んで行く、まとめていくという作業が必要になってくるわけです。</p> <p>今年度末、あと2ヶ月くらいですかね、行政の方では基本構想という形で一つ目のまとめをすることになっています。皆様のお手元に概要案というものがお配りされて</p>

	<p>いるかと思えます。概要案というのは、基本構想がまとまったあとにそれをダイジェストしてつくるものです。基本構想はまだできあがっていない。できあがっていないものの概要なので概要案としています。普通この段階では出しません。でも、たたき台としてつくっている、みんなで考える市民会館だからこそ、今日ここにいる皆さんと一緒に考えようという資料です。まだまだ議会の承認もとれていない段階の、基本構想「案」なのですが、市の方としてはワークショップを受けてこのようにまとめていきたいと考えている、ということをお話を渡部室長の方からお話を願います。</p>
<p>政策推進室 渡部</p>	<p>茂原市企画政策課 政策推進室長の渡部と申します。本日はシンポジウムにご参加いただきありがとうございます。</p> <p>それでは、私から現段階における新市民会館の基本構想（案）につきまして概要案と全面のスクリーンを使い説明させていただきます。お手元は新市民会館基本構想の概要版をご覧ください。</p> <p>市民会館は昭和43年に、中央公民館は昭和42年に開設しました。開設以来、多くの皆様に親しまれ、文化芸術活動の拠点として広く利用していただいたところです。しかし、建設から50年が経過し、ご存知のとおり、構造躯体や設備の経年劣化が著しくなっております。また、過去に実施した耐震診断においても良好な結果を得ていません。そこで、市民会館の建設に向けた基本構想策定にとりかかりましたが、平行して市民会館の存続について協議を重ねた結果、平成31年3月末で市民会館は閉館と発表させていただいたところでございます。</p> <p>市民会館の建設につきましては、茂原市の総合計画などの上位及び関連計画において、補修等の整備、建設の方針、位置づけ、役割を示しております。</p> <p>また、国の施策においても、平成13年度の通称：劇場法以降、文化芸術の振興に関する施策を強めた推進を行っており、昨年度には観光やまちづくりを取り込んだ、文化芸術の継承、発展及び創造の活用の推進を行っております。</p> <p>現在すすめております基本構想ですが、作成にあたり、多くの方のご協力いただいております。</p> <p>まず、策定についてお手伝い頂いている「株式会社シアターワークショップ」様です。劇場やホールづくりから施設運営を行う全国で多くの実績を持つ劇場コンサルタント会社ですが、伊東様には本日のパネルディスカッションのコーディネーターもお願いしております。後ほどよろしくお願います。</p> <p>次に、意見聴取方法ですが、市民16歳以上の2,000人（613人、30.7%）にご協力いただいた市民アンケート、茂原市の周辺17市町村（長生郡、大網白里市、千葉市緑区、山武市、九十九里町、東金市、いすみ市、大多喜町、御宿町、勝浦市、鴨川市）の住民1,000人（千葉市と市原市57.7%）に対して行ったインターネット・アンケート、そして先ほど発表して頂きましたが、16歳～80歳の男女39人が参加した「市民参加によるワークショップ」、中央公民館・市民会館等の施設を利用している団体、さらにまちづくり、学校・福祉関係や文化団体等、あわせて117団体に対しまして、アンケートやヒアリングを実施しました。さらに、市内7つの中学校と4つの高等学校</p>

の11校、併せて101名の生徒とのワークショップ、新成人参加者662人を対象に224人に回答をいただいたシールアンケート（賛成121人、反対48人、わからない55人）を実施し、ご協力をいただいたところです。

なお、「市民参加によるワークショップ」の内容につきまして「かわら版YAPPE!」を作成しました。本日、会場内の壁に貼ってありますので、ご覧いただきたいと思っております。なお、市内公共施設や市ウェブサイト、市フェイスブックでも情報発信しております。ご覧ください。

また、市民ワークショップ参加者を対象にした先進地視察として、シンポジウム開会前にスクリーンで流しておりましたが、神奈川県大和市文化創造拠点シリウスと藤沢市の湘南台文化センターに行ってきました。

このように、アンケートやワークショップ、ヒアリングなどで頂いた意見と我々で整理・分析している内容を、本日のパネリストでもある専門家で大学教授4名からなるアドバイザー会議にはかり、意見や助言などを伺いながら、基本構想をまとめる作業を進めてまいりました。

そこから浮き彫りになってくる市民会館の問題点をまとめますと、施設面においては、施設や音響、照明設備をはじめとした設備の経年劣化、座席や舞台、搬入口が狭い、トイレが利用しにくい等の課題があります。

また運営面においては、開館時間が短い、自主事業がほとんどない、稼働率が低い、情報発信が不足しており、何をやっているかが不明等の閉鎖的な課題があります。そこで、各種計画や市内の施設状況、住民に対する意見聴取や先進事例などを基に、現状や課題、求められるニーズ、目指す将来像を整理した結果、複合化・多機能化した「新たな複合施設」の整備が必要と考えました。

見開き右側の「基本理念」をご覧ください。

この再整備を実現化するために、新たな複合施設の基本理念として、「文化芸術」、「創造」、「市民」、「交流」、「発信」の5つの言葉をキーワードとして掲げます。このキーワードを基に『文化芸術によって人々に安らぎや活力を与え、創造力や表現力を引き出す拠点として、市民生活を豊かにする様々な機会と場を提供する。また、文化芸術はもちろん地域や世代を超えた交流を生み出し、本市の魅力を内外に発信しながら、賑わいづくり・まちづくりにつなげていく。』ことを基本理念としました。

「3 機能構成と施設設備に関する考え方」をご覧ください。

次に施設の機能構成です。アンケートやヒアリングなどで聴取した、求められている機能と必要と考える機能を整理しまとめておりますが、これから施設構成を考える上で、重要なキーワードを設定しました。それは、「重ね使い」と「多機能」です。1つの目的の部屋でなく、様々な機能に柔軟に対応が可能である「多機能」な部屋として「重ね使い」をすることで、ランニングコストや規模を抑え、全体としてコンパクトな施設を目指します。

まず、①大ホール部門ですが、現在の市民会館の直近3年間の利用状況から客席規模は800から1000席と設定します。このホールは、本格的な音楽コンサートだけでなく、客席等を移動し平土間空間にすることで、多機能化を目指します。

現在画面にあるのは、イメージ施設の長野県茅野市にある茅野市民館と秋田県由利本荘市にある文化交流館カダレです。

両施設とも平土間になる広い空間を利用し、様々な用途に利用していることがお分かりになるかと思います。

次に②多目的ホール部門ですが、要望の多かったリハーサル室と、小規模な発表会、また会議室でも使用可能な平土間形式のホールとします。

次に③創造支援部門ですが、ここは主に公民館機能である調理室、工作室、茶道機能を含めた和室などを想定しております。

次に④共用部門ですが、施設利用者のロビー機能だけでなく、施設の賑わいを創出するための空間として計画します。ここでは、ギャラリー、談話、打合せ、飲食、図書、情報提供、市民活動の情報発信などのスペースを考えております。

以上、これらを併せまして、施設全体の延床面積はおおむね6,000から7,000㎡と想定しております。

再整備の手法につきましては、設計から建設までのすべてを市で実施する従来型の公設公営のほか、PFIといった方式、再開発事業、等価交換、定期借地権、賃貸借方式などがありますが、基本計画では様々な事例や事業者に対するサウンディング調査等、協議・研究を行いまして、実際の整備手法について、検討していくこととなります。

建設候補地ですが、新市民会館が果たすべき役割や機能を実現化できる場所であればなりません。そこで、新市民会館の建設が可能と思われる茂原市が保有する広い公共用地3ヶ所を抽出しました。その抽出した場所ですが、現在の敷地、茂原セントラルモール敷地、駅前区画整理事業敷地、現駅前通り商店街駐車場です。各候補地とも、用途地域や水害被害、賃貸借契約、駅前区画整理事業など、さまざまな検討事項を抱えておりますので、今後基本計画を策定していく中で、抽出した建設候補地以外の用地の抽出も含め、詳細に検討します。

建設費の概算ですが、2020年の東京オリンピック関連事業等の影響により建設費が高騰しており、シアターワークショップさんの調べで、類似施設の単価は1㎡あたり約80万円となっております。これを参考にすると、概算建設費は約50から60億円と見込んでおります。また、新市民会館周辺の環境整備に関する費用等も検討が必要です。

新たな複合施設は単に施設を貸し出すだけでなく、公演やイベント等の様々な事業企画や市民の文化活動や参加を推進していくよう、継続的に働きかけなければなりません。そこで機能の違いや法的基準等で縦割りの運用とならないよう、相互の円滑な利用を可能とする運営体制を目指します。

	<p>また、業務内容により、「直営」や「指定管理者」などのそれぞれに適した管理体制について検討するとともに、特に市民が参画した多様な関わり方の検討が必要です。このことにより、施設に対する市民意識の向上や利用の増加につながり、まさに新しい施設が目指す基本理念につながると考えられます。そこで、早い段階から市民参画の運営について計画段階から検討していくことが必要であると考えております。</p> <p>先ほど説明させていただきました3ヶ所の候補地のスケジュールですが、現在の場所ですと、2023年度中に開館、茂原セントラルモールですと2028年度中に開館、駅前区画整理事業では、区画整理事業の進捗状況により左右されますので、明示はしていません。このような見通しを持っております。</p> <p>以上、雑ぱくではございますが、基本構想案について説明させていただきました。</p>
伊東氏	<p>ありがとうございました。皆さんご理解いただけましたでしょうか。色々な内容があるかと思えます。</p> <p>それではここから、せっかく今日専門の先生方にいらして頂いていますから、いくつかのポイントについて先生方のご意見をお伺いしたいと思います。宜しいでしょうか。</p> <p>まずお伺いしたいのは、最初に市長がおっしゃった、まだ五分五分ですよという、市民の皆様からはぜひ早くやろうよと言う声を集めているところだとは思いますが、そうは言いながら、行政としてやらなければいけないことは他にもたくさんあります。そういう中で、市民会館、中央公民館、市民会館は来年度いっぱい閉めてしまう。そこから先はメインになるホールがなくなってしまうという状況はもう決まっております。という状況の中で、この建設を、他にやらなければならないことがたくさんある中で、急いでやらなければならない、ということに対して、先生方はどういうご意見をお持ちでしょうか。</p> <p>やるべきだとおっしゃるのか、そう慌てることはないよと。という質問に対して、4人の先生方どうお答えになりますでしょうか。すみません、はじめから難しい問題で。</p>
五十嵐氏	<p>公共施設と総合管理計画というのは、平成28年10月に策定をお手伝いしました立場から申し上げますと、要するに、今後茂原市の人口減少、少子高齢化が進んでまいりますと、当然税金を納める方が少なくなってくる訳です。となりますと、市の財政は今以上に厳しくなることが考えられる、というのが一つございます。</p> <p>それから、公共施設、たくさんの公共施設を持っている訳ですが、それらが一斉に老朽化している。老朽化するとどうなるのか、ということになりますと、雨漏りしたりとか、外壁が落ちてきたりとか、そういったことでそのまま置いておくと施設が使えなくなってしまうことになります。そうならないように、大規模改修という、場合によっては足場を組んで、外壁を直したり屋上を直したり、そういったことをしなければならない。そうするとものすごいお金がかかる訳です。場合によっては、当初の建設費の2割～3割が大規模改修にかかることも考えられると。そういったものを</p>

	<p>色々と計算していくと、試算の結果では今後 40 年間で公共施設全体の 4 割弱を削減しないと財政的にはなかなかうまくいかない、という結論が出てきている訳です。</p> <p>その中で目標として、今後 15 年間で延べ床面積を 13%削減しましょうと。こういうものが公共施設と総合管理計画の概要になっています。その計画の方向性として、施設総量を適正化しましょうと。適正化というのは、どんどん削ってしまおうというものばかりではありません。必要なものは残していくし、そうでないものは圧縮していくと、こういう中で市民の皆様の色々な意見をお伺いしながら施設の総量を適正化して行きましょうと。当然昔に比べると人口は減ってきていますし、例えば、小中学生の数も減ってきていますので、学校の施設の量が適正なのかとか、色々な公共施設の量が適正なのかどうか、こういったところをきちんと検証しながら適正な量にしていかなければならないと。</p> <p>それから、施設の長寿命化です。これまででいくと、40 年 50 年で建替えていたものを、60 年～80 年に長寿命化していこうと。これは単に放っておけば長寿命化するわけではないので、それなりの維持管理をしたり、改修工事をしたりすることが必要になってくる。そういったものを進めるために、管理運営の最適化、インフラ施設の維持管理における最適化をしていきましょう、というのが方針になっています。こういった厳しい状況の中で、市民会館、中央公民館をどうするのか、ということを考えて行かなければならない。</p> <p>物理的には、先ほどの写真に出ていてご覧になられましたように、もう限界になっているのは確かです。そうしますと、建替えというのはどうしても出てくるかなと。ただ、色々な公共施設、例えば学校、公民館にも手を入れていかなければいけない、そういった中で、なおかつ市民会館というのを、物理的な優先順位としてはかなりトップにきていると思いますが、他の公共施設も含めて全体の中でどうしていくのか、こういった一つの大きな制約があるのだという認識を持った上で、市民会館をどうしたらいいのかということを考えていかなければならない。とすると、つくるとすれば、いかにコストを最小限に済ませていくのか。その中で、極端な話 24 時間使い倒せるような施設であれば、お金を出した分見返りがあるかなと思われる訳です。そういったような活用ができるのかどうか、活用を実現するための運営はどうしていったらいいのか、こうしたものを合わせて考えていく必要があるかなと。</p> <p>これらを合わせて、できる限りコストを削減して、続けていけるような施設、計画を立てられるのであれば、ある程度市の財政負担は必要かと思います。ずっと続けていけるような、例えば 60 年 80 年、使い続けられるような施設になっていくのかなと思います。あまり結論を言わなかったような意見ですが、恐縮ではございますが、以上でございます。</p>
古橋氏	<p>先ほどのお話の続きになりますが、あえて言えば僕は、先ほどじっくり考えるべきであると言っておきながら、だからと言って、考えれば良いというものではないと思っています。</p>

実は公民館も見させて頂いて、あの建物、正直言って古くて、今となってみれば時代を経て、維持も大変な建物であると思うのですが、それにまして皆さんが、スケジュール表を見たらいっぱいなんですよね。中を見学させてくださいと言ったのですが、使っているからだめですと言われて見られない部屋がたくさんありました。これは素晴らしいことですよね。この動きが、施設がないことによってなくなるということは、最大の損失だと思いました。

なので、できればやはり早くつくるべきだと思うんです。ただ、先ほどの皆さんの夢を全部叶えていたら、はっきり言ってまとまるために何十年あっても届かないと思います。

それでは、実は事前に資料を見せて頂きまして、今日どんなプレゼンテーションで、皆さんがどんなことを考えていらっしゃるのかということはこの前の会議から見せて頂いている中で、それが今日立派な基本構想という形で上がっていて、もしこれを実際に設計しようと思えば、ある意味設計できるだけの色々な情報が揃って、なおかつ、先ほどのプレゼンテーションの中で実際のプラン、平面図まで出ていましたよね。見ても非常に良くできている。

私ここに書いてあるように昭和音楽大学という大学で働いておりますけれども、ベースは実は建築なんです。建築の立場から劇場をもとに考えているんですけれども、学校の性格もありましてソフトウェアもやっています。先週の木曜日、最後の授業がありまして、そこで学生に出させたレポートを勝手に持ってきたので見てください。

実はこの課題は何かというと、学生さん皆さんの周りにあるパフォーマンスの空間を探してきなさい、ということなんです。既存の空間はだめ、そうでない空間で何かできる場所を探しなさいという課題です。実際の劇場はダメ、それから、実際に何をやるか必ず指定しなさい、というのが条件になっています。

それで、実際にできるかどうかとか、設備がどうのこうのというのは、逆に言えば二の次です。学生さんのほとんど、それも私の教えている学生は舞台スタッフの科がありまして、舞台美術、照明音響の専門家に成ろうとしている学生さんです。そういう人ほど、どちらかという一番多いのは公園だったりとか、駅前広場だったりとか、そういうところに仮設の劇場をつかって、設備を整えて、例えばロックフェスみたいなものやるとか、吹奏楽をやるとかいう案が多いんですけれども、そういう案でないものがあります。

例えばこれ。これは何かと言いますと、必ず名前は付けなさいと書いてあるのですが、けれども、「林家屋外倉庫」と書いてあります。実はこれ、一応劇場名が書いてあります。「仲宿表参道小劇場」と書いてありますけれども、林さんの家なんです。林さんの家は、神社の参道の横左側にある。これが林家の本当の倉庫です。これが参道に面している。

芸能とかそういうものは根源的にどこで始まったかということ、お能であり歌舞伎であり、みんなやはり宗教施設といえますか、神社や寺と必ずリンクしています。なので、この倉庫だけ見たらバラックですけども、ここでお祭りの時、見世物小屋が出

たり賑わいを創出したりしたことってあったと思います。そういうために、この左の倉庫を使ったら、何か面白くできるのでは、みたいなことを感じさせる案でした。

次は全然違います。実は、ご存知の方もいらっしゃるでしょうか、岐阜県に養老天命反転地という、現代美術の巨匠の荒川修作さんという方がつくった公園がある。この公園を舞台にしてパフォーマンスをやるという案です。

何をやるのか、これは、荒川さんは非常に過激な、それも建築に近い形で彫刻の空間を造られる方で、建物のように建物でない、機能のない空間がたくさん散りばめられています。ここで彼女、大野さんが提案したのが、シェイクスピアの十二夜をやりたい、という。十二夜というのはもともとどこでもない場所が舞台になっているところで、そこで色々なことが起こるのですけれども、それをこういった色々な、建築ではない舞台ではない劇場ではないところを、舞台にしてと言いますか、設定することによって、色々なところから見方が変わって今までにない舞台が作られるのではないかと、という提案です。

それではどんどん次に行きましょう。もう一つ、これは、渡邊さんという女性の学生さんですけれども、大田区でおじいちゃんが町工場をやっていると。その町工場の、右側にありますけれども、いわゆる新金属で、いわゆるハイテクなものを職人技でつくっている工場のお孫さんです。彼女が実はKAATという神奈川県のアート劇場でクルト・ヴァイルの「マハゴニー市の興亡」という劇を観たと。それが、舞台の上に来てお客さんを乗せてやるという演劇をやって、それに非常に感動したというところから発して、それを自分のおじいちゃんの工場で行ったらどうだろうということを提案しているのです。で、今陸王だとか、その前の下町ロケットだとか色々やっていたけれども、これはクルト・ヴァイルという有名な、クラシックではありますけれども、内容的にはジャズだったり非常に下世話なものも取り込んだその時代、背景を持っている演劇をこの工場で行う、ということを提案しております、クルト・ヴァイルの背負っているものも含め、こういうものをここでやったらワクワクするものがあるじゃない、というのが彼女の提案な訳です。実際にできるかどうかというと、色々な問題もある。でも、例えばこの町工場だったら何をやっても許される空間ですよ。これを、じゃあ実際に劇団はどうやって使うんだろう、と言うところが、逆に言うと創造力を掻き立てられると思います。

それで、一番最初の案と言うのは、場所でしたね。神社の横という。茂原市というのは、どういう場所なのでしょう。すみません、私は外から来ておりますので、本当の意味がどこまでわかっているか分かりません。学生さんに今、例えばよく来る劇場どこですかと聞いたら、さいたまアリーナだと言います。さいたまアリーナに来ている学生さんはどこから来ているかと聞けば、福島、宮城という。つまり、いわゆるアイドルだったりとか、そういう人たちを追っかけてくる人というのは、逆に東北から新幹線に乗ってきたら、いわゆる聖地、メッカである武道館、東京ドームよりも大宮の方がずっと近い。郡山から1時間かからない、1時間で来られる、こういう世界です。じゃあ茂原市は何を持っているかということを考えたときに、皆さんずっと恵

	<p>まれていますよね、ある意味では。私実は埼玉県民なので、ここまで来るのに結構時間はかかりましたが、それでもそんなに苦ではなく来ることが出来ました。皆さんが、東京ドームに行こうと思ったら行ける距離ですよ、今の世の中で言ったら。そうすると、この劇場がここにあることによってどういう意味を持っているのかと言うのを、色々な事を考えることも必要ですけども、その上で実際にここに一番あったらいい物は何かと言うのを皆さんに考えて欲しいなと思います。</p> <p>それから、私が先ほどのレポートでも必ず言っているのは、何をやるか考えると。つまり、何もなかったらただの倉庫です。ただ倉庫であり、本当は工場なんです。でも、そこで何をやるかということを考えることによって、新しい創造力が生まれてくるということです。実は私今学校で、いわゆる舞台のプロの先生たちと仕事をさせて頂いています。すると、実はプロの人達ほど厳しい状況で仕事をしています。本当に狭い所、立派な舞台ではないところで色々なパフォーマンスをやっておられる。その中で、どういう工夫をしてやれば、最高のパフォーマンスができるかと言うのを考えるのがプロの仕事です。なので、逆に言えばそこはプロの人達に任せてもいいんです。プロの人達はプライドにかけて最高のパフォーマンスをやるような仕掛けを考えてくれます。いま、変にプロで固まってきている、では一回それをもう一度噛み砕いて、正直言って僕も一応建築家なので、皆さんのこれを見たら大体頭の中に空間まで絵が見えてきます。でも、それだけではない。それをもう一度噛み砕いて、自分たちが本当に使えるもの、使いやすいもの、あるいはもしかしたら何か足りないかもしれない、そこに自分たちが工夫してそれを育てていけるようなものをつくって欲しいんです。</p> <p>そのためには我慢する部分もあったりするかもしれないですけども、最低限必要なものを用意してそれを自分たちが育てていく。こういったスタンスでこの次のステップへ進んで頂けたらいいなと思います。すみません、少し長くなりました。</p>
伊東氏	<p>はい、ありがとうございます。次の話題に行きますね。時間がどんどん足りなくなっちゃう。今2人の先生方からお話伺いましたが、よし分った、すぐつくろうとはなかなか思えないところがありまして、なかなか難しいですね。</p> <p>次の話題に行きます。劇場ホール、劇場音楽堂みたいなものだと、これはもう一部の舞台芸術愛好家のための施設ではないかと言われがちだと思います。市民皆がクラシック音楽を聴いているのか、演劇を観に行っているのか、歌舞伎に行く人は何人いるんだ、と考えると、そのために公共のお金を使って、先ほど50億60億というお金が出てきましたけど、そんな立派な施設をつくる意味が本当にあるのだろうか。東京に観に行けばいいのでは、歌舞伎座行って観ればいいのでは、と言われてしまうかもしれないですよ。</p> <p>そういうような、どちらかと言うと限定的な利用の施設と思われがちな文化会館、市民会館、だと思うのですけれども、そういった市民全体のための施設だと見てもえられない施設は、優先順位が落ちてしまうのではないかと思うんですけども、倉田先</p>

	<p>生はまちづくりの専門家として、そういったことを言われた時に対する回答を教えてください。</p>
<p>倉田氏</p>	<p>私自身は、こういった市民が利用する公共施設というのは、最終的には市民の生活の質を豊かにする、暮らしを豊かにするものではないかと思います。特に最近は少子高齢化と言われます。人口が減っていくということになるかもしれませんが、一方で、一人一人の持っている時間、仕事をしている時間以外の時間が非常に増えてきます。特に高齢者はそうです。そうした時間をどれだけ豊かにできるかという、そうした公共施設を利用した、市民活動を通して色々な交流を生むということが非常に大事になってくる訳です。こういった公共施設に対する公共投資にこういった効果があるのかを測るとすれば、まさにそこではないかと思います。</p> <p>そしてこの施設をどのように皆さんが利用するかかがすごく大事だと思っています。先ほども申し上げましたように、これまで同じような施設の計画を市民とともに議論して、いくつもつくってきた経験がありますので、そのあたりをご紹介しながらお話させて頂ければと思います。</p> <p>先ほども少し出てきましたけれども、いくつかある中で茅野市民館という施設を、伊東さんとも一緒にやらせて頂いています。これは市民が管理運営まで含めると200回以上ワークショップをやっているという施設です。先ほど申し上げたように、最初に皆さんに夢を語って頂いたときは、施設が2つあっても足りない、3つくらい必要である状況でした。そこからスタートして最終的には、もちろん諦めたものもいくつかありますけれども、多くの夢は諦めずにそれが実際に実現できた、というケースになります。</p> <p>これはホールですけれども、ホールの規模は800席です。これは大ホールで、これとは別に音楽専用のホールもあります。このホールでは、下の階だけを使うと500席くらいになります。ですからこれは中ホールも兼ねられる。それから、客席も、平土間にもなります。平土間になると、そこではいろいろなことができます。展示ももちろんできますし、パーティーもできます。通常の劇場としての利用以外の事もできます。住宅展示場、プロレスもできます。それからこの施設は、中庭的な外部空間とそのままつながるような施設のつくりになっていますので、ホールと外部を一体的に使うというようなことも実際に行っております。このホールの前には通常ホールで言えばホワイエと言われるような場所があるのですが、ここも単なるホールの附属施設というだけではなくて、共通ロビーというような形で、展示スペースにもなるし、小さな催物もできるというような、そんなつくり方をしています。</p> <p>また、他にもリハーサル室というスペースがありますが、これも小さなホールとしてバンドのような音がでるものに使っておりますし、ダンスの練習ができるような室内になっており、色々な機能を持たせています。</p> <p>ただこれを実現するためには、運営が大事になります。特に夜間利用を考えると、職員だけで運営すると、2シフトと言うんですかね、職員が2交代くらいでやらないとそれだけの時間の利用ができない。その部分を市民の組織がそれをサポートしてい</p>

	<p>ます。「サポートC」という市民の組織が出来ています。この組織は単なるボランティア的なサポートだけではなく、自主事業を企画することもやっています。計画・設計や管理運営を検討する段階でのワークショップを通してこうした組織が育ってきてます。紹介するときりがなくなってしまうますが、そうした運営によって、当初考えた以上に実際に使われている施設の事例になるかと思います。</p> <p>それから、これは市民と議論をしていた時ですが、ホールというのは特定の人達が目的を持ってくるときにしか利用しない。そうではなくて、市民の皆さんが気楽に立ち寄れる場所にするにはどうしたらいいか。それも、世代関係なく利用できる施設にするにはどうしたらいいか、という議論がなされました。その議論の中で、市民の方たちがそれは図書館だという話をされました。当初図書館はこの中に機能として入っていませんでした。実際に別の場所に立派な図書館があります。ただ、ここはあくまでも図書館そのものを持ってくるというよりは、図書館的な機能を持ってくることによって、色々な人たちが気楽に立ち寄れる場にする事が実現するという事です。特に、駅に直結していることもあって、電車を待っている学生たちがちょっと図書館で待って、電車がきたらすぐそこへ行って電車に乗るというようなことも可能になっています。図書館も従来の図書館とは少しイメージが違う形で図書館をつくっています。市民の側から色々な世代の人達、子どもから高齢者までが立ち寄れるためには、そういう施設が必要だということ色々議論する中で生まれてきたアイディアです。</p> <p>幸い茂原市は公民館と市民館を一緒に複合化しようというアイディアになっていきますので、ホールにとっても公民館はそれを補完する機能になると思いますし、公民館にとってもホールというのは公民館を補完する機能になります。組み合わせとして、使い方によっては重なる部分もあるので、スペースの有効利用という点でも面白いものが実現するのではないかなと思います。</p>
伊東氏	<p>はい、ありがとうございます。先ほど私が質問した文化芸術愛好家のためだけの施設であることに対してどうするかということ言えば、じゃあ市民全員が文化芸術の愛好家になればいいんですよ。その裾野を広げていく、全員が興味を持つように仕組んでいくということ。</p> <p>それから文化芸術にこだわる必要はないので、もっと幅広いことに使っていけばいい、というのが一点。ただ、文化芸術と言う言葉を私もよく理解できないのですが、文化と芸術ってカバーしている範囲がずいぶん違うのではないかと。</p> <p>芸術というとすごく高みのある、高みの方向へ目指すような一流のもの、というイメージがありますが、文化というとすごく幅広いですよ。生活文化、食文化という言葉もある訳ですから、ある意味何でも、生きとし生けるというその行為は文化に関わっている訳ですよ。ですから、今回の施設も、ホールを文化芸術、芸術に特化したホールではなくて、平土間にも転換ができて、様々な使い方ができるようなホールにしていこうよと、という意図は、一部の愛好家のためだけの施設ではない、全ての市民、広域の市民の人達が自由に使える空間なんだよ、その使い方については、古橋先生もご指摘になっていましたけど、アイディア次第なんですよ。この空間を使</p>

	<p>ってこんなことをやってみたいなということに対して、ホールのスタッフの側はそれが実現できるように色々と工夫をしていく。そういう使い方をしていくのが良いということなのかなと私は思いました。</p> <p>それともう一点は、図書館の話が出ましたが、茂原市の図書館も今駅前の建物の中にあって、あれは仮なんでしょうか。もう少しなんとかしないといけないと思うんですが、図書館は、ホールよりも先行して新しいものがどんどん出てきていますよね。それこそ、居場所であったりとか、サードプレイスみたいな呼ばれ方をしていますけれども、昔は本を借りたり勉強する場だったんですけれども、時間が空いたら図書館行って時間を過ごそうというような傾向が強くなってきているのかなと思います。</p> <p>皆で見学にいった大和市のシリウスという施設は、図書館とホールが複合しています、実に初年度年間 300 万人です。300 万人の人が訪れる施設になっています。このくらい訪れてくれば、議会も大万歳ですよ。やはり、どのくらい稼働して、どのくらいの人 coming と言うのは大きな指標になりますので、図書館は今それがクリアできたのかなという感じがします。ではそれをホールでできないのかなと言うところが一つのアイデアで、まだ全国、茅野市民館なんかはそういった観点でやっていますからそれに近いと思いますけれども、まだまだ先行事例として注目されているものは少ないのかなというふうに思います。ですから、そういったところを狙っていくことによって、より多くの市民が興味関心を持ちやってくるような施設づくりということを考えていけば、当然、五十嵐先生の先ほどのお話もありましたけれども、優先順位が高くなっていきますよね。</p> <p>その時に、地域性の問題が少し気になっています。先ほど歌舞伎好きな人は歌舞伎座に行けばいいというお話をしましたが、篠原先生は東金で多感な高校時代までお過ごしになったと伺っていますけれども、やはり地方で生まれ育った人にとって、文化芸術ですとか、様々な刺激というものについて、どうなんでしょうか。東京に行けばいいよという話ではないような気がするんですが。</p>
篠原氏	<p>私が生まれ育ったときはまだ東金文化会館もなく、本当に小さい頃は映画館が 2 個くらいあって、映画を観に行くというのと、図書館に行くというの、それから、お芝居を観に行くとなると千葉の文化会館に行っていました。ポリショイバレエ団とか。だから、その地域でどういう施設を持つかということで、一番最初のご発表にもありましたけれども、広域で考えたときに、どこに何があればいいのかということも考えなければならぬとは思っています。</p> <p>私が思うに、優先順位の話に戻ると、単に 800 席 1000 席のクオリティの高いホールというのであれば、維持管理も考えてなかなか大変だろうと思いますが、まちづくりの観点から言えば、田舎だと、家の母の生活を見ている、ふらりと出かける場所とか、誰かと出会う場所とか、行くきっかけになる場所が、やはり必要だろうと思っています。そういうことを何か公民館と合体することによって、車社会で孤立しがちな人たちが集まる場所になるということであれば、かなり優先順位があがるのではと思います。</p>

	<p>また、もう一つ私たちが直面しなくてはならないリスクというのは、老朽化だけではなくて、孤立とか人口減少といったことも今直面しているリスクであって、そういうことをどう地方の社会が回避しながら、いきいきと死ぬまで暮らせるかということを考えてときに、新しい施設が市民会館＋ホール＋公民館ということになれるのであればすごく素晴らしいなと思って、最初のご発表から話を伺っておりました。</p>
伊東氏	<p>ありがとうございます。はい。時間がどんどん少なくなってきておまして、今度は計画の進め方のお話をさせて頂きたいんですけども、いわゆる PPP、パブリック・プライベート・パートナーシップ、公共と民間と市民とが一緒になってパートナーシップを組んで進めて行くという事ですが、これはできあがったあとの運営という事だけではなくて、計画のプロセスにおいても言えることなのかなと思いますけれども。パブリックとプライベート、官民が一緒にやることと同時に、そこにこの新しい施設をつくっていくということには専門家というファクターがもう一つ重要で、プロフェッショナルの P が入ってくるのかなと思います。ですから、そこら辺のものを建てていくプロセスに一番詳しい倉田先生と、建築家としてやってらっしゃる篠原先生お二人にお伺いしたいのですけれども、そのプロセスのあり方について、少しお話を頂きたいと思います。</p>
倉田氏	<p>これは正解がある訳ではないと思います。これからの施設整備のプロセスは、基本的には協働だと思います。先ほどお話のあった PPP というのも協働ですけども、協働のあり方も茂原らしい協働というのを考えていく必要があると思います。公共の財政が厳しい中で、一時的にしる民間のお金を上手に利用してものを建てるとか、運営を民間に委託するような選択肢はあると思います。</p> <p>ただ、色々な事例をみてみますと、メリットだけではなくて、外に運営を委託しますと市民がなかなか参加しにくいような状況もでてきたりします。それから、建物をたてるところに民間が入ってくると、経済原理が優先され、コストを落とすということであれば何でもやってしまうということにもなりかねない。</p> <p>そういった長所短所のバランスを考えながらやっていく必要があるのではないかなと思います。プロセス自体にも、ものをつくる専門家だけではなく、プロセスを調整できる人間が関わるのも大切なことだと思いますし、個人的な意見ですが、協働の意識を持った設計者を選ぶことも重要ではないかと思っています。そこで一番大切なのは、運営に市民がどの程度主体的に関わることが出来るかが大きいのではないかと思います。いくら立派なものをつくっても利用されなければ意味がないわけですから。使う側を優先して、ものを考えていく必要があると思います。そこからどういうところにお金を使うべきか考える必要があると思います。従来の公共施設ですと見た目が豪華であるとか、施設そのもののリッチさを競うところがありましたけれども、もうそうした時代ではないだろうと思います。いかに使いやすい施設をつくるかということと、同時に、どうやって民間の知恵やお金を利用しながらやっていくかという発想が必要となってくるだろうと思います。</p>

	<p>もちろん民間のお金の使い方は色々あって、最近ではネーミング・ライツをつかってやっていることもあります。どの部分に民間のお金を利用するかということもありますけれども、まだこれからですので、色々な事例を研究しながら、できるだけ茂原市の状況にふさわしい方法を選択することが必要だと思います。一番大切なのは、このあと後世、今若い人たちに負担を残さないものをつくっていくということも非常に大事ではないかと思っています。</p>
篠原氏	<p>建設までのプロセスに言えば、設計者として何ができるかというのは施主の力によるものが大きいので、やはりタフな施主、オーナーチームをつくる必要があると思います。</p> <p>それは、住民と、行政の人と、専門家を入れた、継続的に考えていくチームがいるだろうなと思っています。運営プロセスについては、道の駅保田小学校というのを去年やりまして、民間の会社が運営することになりました。ずっと学生と一緒にコンペをやったり運営の事を考えたりしたのですが、利益は出ているようですが、私たちとしては学生が巻き込んで、という状況はやりづらくなっているの、倉田先生のおっしゃったことと同じで、まるっと民間に任せると手離れはいいのですが、なかなか市民参画とか協働ということは結構むずかしくなるかなという感覚はしています。その辺がうまくトライアンドエラーじゃないですけど、事例を見て行ったらいいのかなという風に思います。</p>
伊東氏	<p>はい、ありがとうございます。今お二人の先生が「きょうどう」ということをおっしゃっていますけれども、漢字が、協力の協に働くという字です。</p> <p>古橋先生、昭和音楽大学では日本で初めてアートマネジメント学科という、劇場で働く人材の養成というのをやっております。それと、劇場で働く技術スタッフの養成というようなことで、学生を育てていますから、当然その人たちがプロとして働いていく場所をつくっていくというのは責務だと思うんですけども、こういった地方のホールの中で、これからの人材の養成、市民とプロフェッショナルを繋ぐ役割というのはいかががでしょうか。</p>
古橋氏	<p>はい、我々の学校は卒業生を出してから20年になります。そうしますと、最初に出た人たちが40人を超したという状況で、中核で働いて頑張っている卒業生はたくさんいます。地方のホールでも新潟だったり北上だったり、九州、北海道は居ないのですが、東北まで、全国に散って頑張っている訳です。正直言って僕もそういう中にいて、今伊東さんからも話がありましたが、プロの力というのは重要です。</p> <p>発想として、皆さんの発想を現実にしていくのはプロフェッショナルの力です。その間を取り持つということは、皆さんの事を理解でき、なおかつ現場の事も理解できる人が必要だということです。間を取り持てる通訳ができること。で、いざというときには厳しいことも言わなければならない。皆さんのことを理解し実際の現場と繋げるプロフェッショナルというのが最近いろんなところでファシリテーターということもでていますが、通訳ができ、なおかつそれがプロとして働ける人間というのがいますし、今それを我々は育てている訳です。だから、皆さんの意見がそのまま通るとい</p>

	<p>うのはたいへんなことですが、それを理解できる職員の人、そして先ほど少し指定管理と言うお話もあったんですけれども、指定管理の問題というのは、我々の学生さんたちが卒業して就職しても、それがハッキリ言えば終身雇用ではない、何年かかけて結果を出していかないと会社としてそれが切られてしまうという状況にありまして、そうすると、長い目で人も文化芸術も育てていくということは10年20年かかる訳です。そこも皆さんに理解して頂きたいというのがもう一つです。</p> <p>それからもう一つ、私いま現場にいて、コンサートをつくっています。世界中、日本を代表するアーティストと学生を巻き込んでつくっている訳ですが、それは施設がいいからアーティストが来てくれるという訳ではありません。我々の学生さんが頼みにいきます。うっかりいくと飛び込みで行きます。私たちはあなたにこういう演奏をして欲しいんです、あなたのこの曲が聞きたいんですということを直接アプローチさせます。そうすると、多くのアーティストがギャラの事を抜きにして、来てくれます。彼らは普段自分がやっている仕事と自分がやりたいと思っている活動に何らかのギャップを持っていることがある。そうすると、そのアーティストが本当に普段やりたい事をやらせてあげる、場を用意してあげるという喜んで来てくれます。逆に言うと、学生さんに乗せられちゃったよと言いながら、余計な仕事まで、アンコール何度もやったりして、一緒になって働いてくれます。それを動かすのは皆さんの熱意です。何も、否定ではないですが、音響が良いから私はあそこに行きたいというのは非常にまれです。逆に、人を動かせるのは人の力です。そう思います。それは、劇場の人の力でもあり、それを使う皆さんの力でもあります。</p>
伊東氏	<p>ありがとうございます。ほぼまとめの段階に入りました。最後、五十嵐先生に、ほかの3先生方がホールをつくってきている人間たちとか運営している人たちの意見が出てきたので、それをまとめて公共施設、茂原市において今後どうするかという、フィフティフィフティをもう少し、80%とか90%くらいまでいくようなまとめをして欲しいなど。よろしくお願いします。</p>
五十嵐氏	<p>今市長がきらりとこちらを…ほんとにつくるのか、ということではないと思うのですが。今3人の先生方がおっしゃられたように、市民の熱意でプロフェッショナルを動かして行ってより良いものをつくる、まさしくその通りだなと思います。私もコンサルタントをやっているんですが、単なる請負仕事のものあまりやりたくなくて、行政の方がどれだけ熱意を持っているのか、その中で市民の方がどれだけ熱心に公共施設の問題に取り組もうとしているのか、といったところで仕事をさせていただいているところがあります。市民協働、公民協働、公民連携と言うんですけれども、やはり一つのあり方として、市民の方が中心となって事業を進めていくというやり方もあるのかなと思います。</p> <p>単に汗をかくということだけでなく、例えばお金を集めるということも含めて考える必要があるかなと。施設を建設して維持管理をしていくというのは非常にお金のかかる話です。収入をどう確保していくかが大事です。ただ民間企業のようにそこで飲食、商売をやってお金を稼ぐということだけでなく、お金を稼ぐということは例えば</p>

	<p>寄付を募る、クラウドファンディングという仕組みもありますが、そういう形でお金を集めていくとか。場合によってはあまった時間や空間があれば、そこでビジネスをやってお金を補填していくとか、いろいろなアイデアがあります。そういう形で、いろいろな形でお金を確保しながら施設を運営していくのも必要かと思います。</p> <p>その中で、施設をつくるというだけではなく、施設を経営していくという視点ということが必要です。経営というと、公共施設では使うべき言葉ではないと言われていたりするんですけども、いかにそういった公共施設を長く維持していくのか、いろいろな寄付や行政支援を含めていかにお金を確保しながら継続させていくのか、これはまさしく経営だと思うんです。今後人口が減ったり、ニーズが変わっていったり、いろいろなことがあると思います。そういった変化に対応していく、というのも一つ経営なんです。これは行政単体では不得手としているところですので、是非そういう部分にも市民の方が積極的に参画して、いろいろな変化に対応しながら、お金も確保しながら、市民のための施設を長く続けていっていただければと思います。</p>
伊東氏	<p>市民の熱意だというご発言がありました。最後のまとめに市長に話してもらおうと思います。いまフィフティフィフティではだめだけど、51%になれば過半数ですから賛成になります。今日はなんとかフィフティワンにしたいんですが、1%の熱意をいただきたいんですけども。市長、よろしくお願いします。</p>
田中市長	<p>今、先生方から素晴らしいお話を聞かせていただきました。クラウドファンディングですとか、間にプロの方を入れてコーディネートしてもらわないとだめだとか、経営の仕方もたくさんありますので、寄付といったことも視野に入れて検討してはどうか、PPPの話、協働という意味では良いお話を聞かせていただいたかと思っています。</p> <p>私共の方で考えているのはPPPであり、それから寄付という形を含めた市民会館の検討です。それから、その間においては今日きていただいたすごい先生方、プロの集団の方に間に入っていただいてコーディネートしていただく、ということなのではないかと思っています。</p> <p>当初言いましたが、基本構想でございまして、来年度につきましては基本計画として話を進めさせていただく予定です。平成31年度、32年度の2年をかけまして次期茂原市総合計画、本市の事業の方向性を決める計画ですが、そちらを策定する予定です。現段階では計画期間は平成33年度～平成42年度、2021年度～2030年度の10カ年を想定しています。この中で、他に大きな事業として広域市町村圏組合事業、ゴミ、水道、消防を含めた公共施設の老朽化対策、学校の統廃合、あるいは少子高齢化です。この少子高齢化の問題は今後もつきまといっていくはずですが、マイナスの線は見えますが、膨れていく線が見えてきません。人口が増えているところもありますが、奪い合いです。木更津市の人口は増えていますが、神奈川や川崎の人がきたり、君津の人が移っていたりする。こういうような現象が人口増に部分的につながっています。皆東京に目を向けているので、仕方がありません。茂原市は自然減の影響が大きいです。社会減か社会増かということと社会増が月によって、企業が関係しますので、増</p>

	<p>になったり減になったり。従って、どうしても自然減となる。マイナスが仮に月に50人とすると、年間すると600人くらいが茂原市から減ってってしまう。というのが今の状況です。具体的な数字は違うかもしれませんが、そういうような構造に日本全体がなっていると思います。従って、1億2千万の人が1億3千、4千となるのは厳しいと思っていまして、減っていた中でどのように地方が生き残っていくかということを考えていかなければならない。</p> <p>五十嵐先生が言っていました、茂原市が余裕がある状態であれば良いんですが、借金がなければ、すぐにでも進めてしまえます。そういう状況ではないので心配してフィフティフィフティという言葉を使わせていただいたわけです。方向としてはこうして進めていっています。伊東先生も含めまして。茂原市をどういう方向で市民会館、公民館、あるいは図書館も含めて、コーディネートしていただいてうまくやってくれば、というのが私の考えでございます。最短で35年と申しましたが、なんとも言えません。10ヵ年計画でどういった計画が出てくるかというのがありますし、もっと早くなるかもしれません。つまり、経営上の問題で、寄付がどんどん集まれば、すぐに集まれば来年にでもすぐ取り掛かかれる訳です。これは現実問題として想定できないところですので、ここはご理解いただきたいと思っております。</p> <p>行政側としては市民会館という話はもうしていますから、できるだけ早く基金の積み上げ、基金よりも借金が主題だったのでこれまで手付けずにいましたが、こちらも視野に入れて検討をしていきたいと思っております。前向きに市民会館、あるいは公民館との複合施設を視野に入れて考えてまいりたいと思っております。</p>
--	--

質疑応答

発言者	内容
発言者	<p>市民のための市民会館ということであると思うんですが、この地域は成田からも東京からも近い、圏央道の利便性をもっと生かすために、インバウンドも増えていますから、この地域に人を集めるということが大きな課題になっていると思います。その中の市民会館のコンセプトの前提を何にするかということによってそのあり方は変わってくると思います。やはり、民間企業だとか県とか国とか、そういったところの力を是非借りてやっていけば良いと思っております。そうするとさいたまアリーナのように人が集められることになるだろうし、もちろん市民のための市民会館ですけども、先ほど学生さんに考えてもらったという事例がありましたが、この地域にそういった新しいコンセプトのものをつくるということを前提にやっていくという考えはいかがかと思ひ、皆さんにお伺いしたいと思ひます。</p>
伊東氏	<p>まず私からお話させていただきますと、ワークショップの中でもそういったご意見たくさん出てきました。特に、どこにでもあるもの。有名なアーティストのツアーが</p>

	<p>回ってくるのは、別にここである必要はない。そうすると、ここにしかないものこそがグローバルなものなんです。最近グローバルという言葉がありますけれども、最もローカルなものこそグローバルになりうる。ですから、茂原にしかない魅力をいかに皆さんが発見できるかです。それは地域の財産ですよ。観光スポット、人、食かもしれない。いろいろなものがあると思うんですけど、それこそを売り物にしていくことが公益化、集客力になるのかなと思います。市民の皆さんからもたくさんそういったご意見いただいております。</p>
古橋氏	<p>大宮や北上は新幹線というものが大きい。距離よりも時間が大事な時代なので、そういう意味で茂原市が恵まれているかというところでもない。やはりここでしかないものということを生み出せるかということだと思います。うちの大学もいろいろやっていますが、アーティスト輩出ということがあるんですが、若い人が活躍する場がなかなかないというのは他の芸術系の大学でもそうだと思います。そういう連携、産学ということ、そういうことは可能性として今後探られるのも一つの手じゃないかなと思います。</p>
発言者	<p>既存の茂原にある施設、重なっている部分があると思います。公民館とか、そういったものをどうやっていかしていくのか。新しい施設と既存の施設。例えば古くなったものを壊すのか、あるいは改修していくのか、そういったことはどうしていくお考えでしょうか。</p>
五十嵐氏	<p>施設と機能を分離して考えるというのが公共施設問題でよく言われているんですけども、何をやりたいのかということと施設をどうやって使っていくのかということのを別に考えましょう。何かやりたいことがあったときに、既存の施設を使えるのであれば縦割りの使い方を排除して横割りで使っていく。例えば営利目的の事業は公民館ではできなかったと思うんですが、そういったものを一部認めて、その代わりにそこで稼いだお金で新しい施設の維持管理をしていきたいと思いますとか、そういう形で施設全体を横割りで考えていって、いま空いている空間や時間があればそこをいかに有効活用していくか。それでもまだ足りないということであれば、新しい施設は必要、というような形でいろいろな施設を横割りで考えていって、その中でいまやりたいことができるのかできないのかということを検証していきながら、場合によってはこの時間は空いていてこう使えるんじゃないかということをも市民の方から業者へ提案していくとか。そういう形で考えると新しい施設はどうあれば良いのかということが見えてくるのではないのでしょうか。</p>
伊東氏	<p>ありがとうございます。貴重なご意見をたくさん伺えたのではないかと思います。こういった市民の皆さんと一緒につくっていくというプロセスは、一回はじめたらやり通さなくてはいけないですよ。来年度も引き続き、市民の皆様にはご負担をかけることもあるかもしれませんが、PPPPの考えで皆さんと一緒に頑張って盛り上げていきたいと思っています。どんどん盛り上げていけば、建設に至る流れができるのではと信じていますので、是非ご協力いただきたいと思っています。今日は本当にありがとうございました。</p>

閉会

発言者	内容
司会	<p>伊東様ありがとうございました。それでは、閉会に移らせていただきます。</p> <p>コーディネーター、パネリストの皆さま、本日はお忙しい中、ご出席、また貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。ご来場の皆さまにおかれましては、長時間わたってご静聴いただき大変ありがとうございました。</p> <p>シンポジウムへの感想等はアンケート用紙にご記入の上、お帰りの際職員にお渡しください。また、今までのワークショップの報告である「YAPPE!」を後方に展示しております。ぜひご覧になっていただければと思います。</p> <p>以上をもちまして「みんなで考える新市民会館」シンポジウムを閉会とさせていただきます。</p> <p>本日は誠にありがとうございました。お気をつけておかえりください。</p>